

校長室

だより



R7.6.3 Vol.10

運動会 ありがとうございました！

運動会！ご観覧いただきありがとうございました。また準備から後片付けに至るまで大変お世話になりました。本番でも触れましたが、今年度は150周年の記念すべき運動会でした。

練習を開始した日に、記念すべき運動会であること、自分たちで作り上げる運動会にしてほしいことを子供たちに話しました。子供なりに考えて動いてくれたのではないのでしょうか。運動場の草抜きや石拾い、またテント設営の手伝いなど、進んで取り組んでいました。（中には昼休みまで自主的に草抜きをする子供もいました。）

そして本番！一生懸命走ったり、力いっぱい綱を引いたり、はじける笑顔でダンスをしたりする真穴っ子たちの姿が感動でした。パルーン飛ばしは映画のワンシーンのようでした。

私自身これまでたくさんの運動会を経験してきました。もちろん、どの運動会も素晴らしいものでした。そして真穴小の運動会、うまく言葉にできませんが、温かいんです。子供の一生懸命の姿であったり、保護者の皆さんの惜しみないご協力であったり、地域の皆様の声援であったり。様々なものが渾然一体となって温かさを生み出している気がします。これからも様々な行事がありますが、子供と共に一生懸命がんばります!!どうぞよろしくお願いいたします。

四方山話真穴 ver2. 其の十(クオリティを求める)

150周年記念Tシャツも花を添えてくれた運動会！サイコーでしたね。

吉川公浩さんに(今年は保護者ではないのに、合力いただきました。感謝！)

考えていただいたロゴデザイン！クオリティの高さにびっくりでした。想像していたはるか上をいく出来栄えに「すごっ！」しか言葉が出ません。そして教頭と二人で「Tシャツだけのデザインで終わるのもったいないな。タオル作れないかな？マイバッグ作れないかな？」と若干、興奮気味に話をしました。クオリティの高いものって人を高揚させたり、魅了したりする力があるんじゃないかなと思っています。

これは私たちの教育活動にもあてはまります。ただ、毎日、毎時間、完璧な活動を求めようとすると、教員は本当に寝る時間がなくなります。(授業って求めると、きりがありません。)体調を崩したりしたら本末転倒な話になりますので、そこは軽重をつけて。例えば、自分の得意分野では子供と共にクオリティの高いものを求める。そんな時間があればいいかなと思っています。プロの演出家が子供たちに稽古をつける場面に私もいたことがあります。私は教員としての物差しで「いやあ、そりゃ無理だろ？子供には絶対わからない。」そう感じていました。でも違ったんですね。子供はより質の高いものを体現・表現し始めるんです。そして子供はそこに達成感や充実感を持ち始めます。スポーツで、できなかった技ができれば始める感覚にも近いと思います。何を求めるか？それはスポーツでも、文化・芸術活動でも、自分の得意な教科の活動でも何でもいいと思います。質の高いものを子供と共に求めていく。どんな形のものができあがるのかはわかりませんが、それはきっと、子供たちの記憶に充実感と共に残るものになると思います。



----- 切り取り線 -----

便りの感想や学校への要望等ありましたら、お聞かせください。今後の学校経営・運営に役立てていきたいと思っています。